

## 令和7年度 学校評価表

(中間・最終)

三原市立鷺浦小学校

校番( 16 )

a 学校教育目標	故郷を愛し、故郷のために尽くし、自ら伸びようとする児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)・児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着させる学校 ・きまりを尊重し、自他を大切にしながら健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・郷土のよさと課題を知り、郷土のために力を尽くす児童を育てる学校											
評価計画					自己評価				改善方策		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析		n 改善方策	l 評価		m コメント
					h 達成値	h 達成値						イ	ロ	
確かに学力の向上	児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着させる	児童一人一人の実態を把握し、児童に自己選択、自己決定させながら、学ぶ意欲を高め見通しをもって学習できる授業を行う。 2 ICT機器等を効果的に活用し、学びに組み込む。	・児童学習アンケートにおける児童の自己評価	肯定的評価80%以上	113%		141%	A	○授業中、自分で考えたり、自分で決めて学習していると回答した児童が、95%であった。授業の場で自分で考える場や、自己選択・決定の場を設定していることが原因だと考える。 ○授業中にクロームブックを使って学習していると回答した児童が、86%であった。低学年のクロームブック活用が少なかった。		○今後も授業の中で、自分で考える場面、自分で選択する場面を意図的に取り入れる授業を継続することで、自分で考える力をつけていく。また、児童の実態を見取りながら、個別に必要な支援を行っていく。 ○授業の中で意図的にICTを活用する場面を取り入れ、ICT活用に慣れさせていく。またミライシードを活用し、基礎基本の力も定着させていく。	○		・教材研究の成果が日々の授業に確実に生かされている。 ・各児童の実態を把握し、学習内容や方法を工夫している。 ・児童の学ぶ意欲を高めるよう今後の取組も期待する。
		「学ぶ楽しさ・わかる喜び」を感じることのできる授業を行い、基礎学力を定着させる	1 教材研究を綿密に行い、児童実態に応じた教材の開発や発問の工夫を行う。 2 各児童に合った学習内容や方法を工夫するなど、授業改善を行う。	・単元末テストにおいて、期待値以上の得点をとった児童の割合	達成児童80%以上	100%	125%	A	○1学期の国語、算数の単元末テストの結果は、概ねどの学年も平均90点を超えていた。ほとんどの児童が学習内容の定着ができている。		○単元末テストは、目標値を達成しているが、学力の個人差が大きいので、ユニバーサルデザインを意識した子どもの理解できる授業づくりを行っていく。また、管理職と相談しながら個別学習も進めいく。	○		
豊かな心と健やかな体の育成	自分たちのきまりを尊重し、他者とのかかわりを通して自己肯定感と連帯感を高める	他者の良さや頑張りに気づき、お互いを尊重する雰囲気を醸成する	1 児童主体による、島民や外部団体との交流活動等を計画的に実施する。 2 定期的に、お互いの良さや頑張りをメッセージとして「見える化」し、認め合う活動を行う。	・他者の良さや頑張りを月に1つ以上見つけ紹介した児童の割合	達成児童80%	100%	125%	A	○ORDSの交流会や春の遠足では、児童が計画・進行を行い、交流を行うことができた。振り返りを行うことで、お互いの頑張りを認めたり、次回への改善点を考えたりすることができた。 ○良いこと見つけ朝会を毎週行い、児童全員が友達のよさや頑張りを見つけてカードに書いて伝えることができている。		○振り返りを生かしながら、交流活動を行い、交流するよさや、達成感・連帯感を感じることができるようになる。 ○引き続き良いこと見つけ朝会を行い、自己肯定感を高めていくことができるようにする。また、普段の生活でも、よさや頑張りを職員が認め、子ども同士でも伝え合い、認め合う風土を作っていく。	○		・学年差を超えたところで互いに関りを強めている。思いやりが育っている。 ・少人数で各学年、お互いの距離が近く影響し合い豊かな心を育んでいる。
		自分の目標に向けて、努力し続ける児童を育成する	1 自分の良さや興味・関心をもとに、自分の力を伸ばし、みんなのためになる活動を選択・決定させる。 2 定期的に、目標と取組状況について児童と話し合い、目標達成に向けて児童に見通しを持たせる。	・自分の目標を立て、継続的に努力した児童の割合(観察・アンケート)	達成児童80%	100%	125%	A	○上級生が下級生を助けたり、お互いを認め声掛けをしたりする姿が見られている。また、学校での困りごとを学級で出し合い、全校で取り組もうとする児童の姿も見られた。 ○自分の目標を立て、継続的に努力していると肯定的に答えた児童は100%だった。頑張りなどを認める声掛けを職員が行い、継続する意欲を高めているからだと考える。		○児童主体の「鷺浦小学校チャレンジ」(がんばり週間)を行い、全校で学校をよくしていく気持ちを高めていく。 ○長期的な目標に対しては定期的に振り返りや評価を行う時間を設定し、できていることと、頑張っていることを明確にし、継続する意欲を高めていくようになる。	○		・自己肯定感の向上に向けて、教職員が同じ思いで取り組んでいることが良い方向に進んでいる。
信頼される学校	佐木島の学校として島民から必要とされる存在となるとともに、特認校として市民の期待に応えることができる存在となる	本校に対する島民等の関心の持続・向上	1 島内三地区に定期的に出向き、島民との交流活動を行う。 2 児童のメッセージ、学校生活の様子等を定期的に発信する。	・学校教育活動への満足度(保護者や町内会役員等へのアンケート)	肯定的評価90%以上	100%	111%	A	○CSを中心に島民との交流を行っている。特に遠足や運動会では、島民の方と合同で開催することができた。 ○毎月、学校の様子を学校だよりと双鷺州で島民の皆様に回覧してお知らせしたり、港や郵便局など人の集まるところに掲示したりすることができた。		○コミュニティスクール運営委員と協働しながら、めざす子ども像の実現に向けた取組を計画実行していく。 ○島内の各団体と連携を取りながら、島民と児童が交流する場を設定していく。 ○島内放送や回覧を利用しながら学校の情報を発信していく。	○		・島内新聞「双鷺州」に毎月学校の様子を掲載する取組で、学校理解は高まっている。 ・運動会や遠足などを計画し、鷺浦小学校と島民の方とのより良い交流ができる。 ・特認校としての教育活動の推進を期待する。 ・先生の業務改善を今後も継続してほしい。
		働き方改革を推進し、働きやすい職場環境を構築する	1 行事等の内容を精選し、効率的な業務を推進する。 2 学校準衛生委員会等で各自の勤務時間外在校時間を確認し、業務の見直しやサポート体制を構築する。	・学校全体の勤務時間外在校時間平均値	・勤務時間外在校時間平均値を、月45時間以下。	100%	100%	A	○勤務時間外在校時間が、45時間を超えなかった割合は100%であった。今後も行事等の内容を精選しながら業務改善を進めいく。 ○月に1度の準衛生委員会で勤務時間や業務負担のある教職員の心身の状態を確認しながらフォローし合える話し合いが行えた。		○ICTを活用した業務効率化をさらに推進する。 ○月に1度の準衛生委員会などを中心に、情報を共有し合い、風通しの良い職場を作っていく。	○		

【j:自己評価 評価】

A:100≤(目標達成) B:80≤(ほぼ達)

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。